

科目名	文章の表現 I	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Composition I	1	前期	2
担当者名	橋元志保	テーマ	論理的文章の書き方の基本を身につけよう	
<p>授業概要</p> <p>言葉とは何でしょうか。わたしたちは、ごく幼い時期から現在に至るまで、ほぼ毎日言葉を使用して生活しています。しかし、わたしたちが日常使用する「話し言葉」と、文章を書く時に用いる「書き言葉」は似て非なるものです。「話し言葉」と「書き言葉」の乖離は、現代語においては僅少化していますが、「書く」という行為を前にして、つい身構えてしまう人も少なくないでしょう。</p> <p>本講義では、論理的文章の基本的な作成方法を学びます。まずは何のために書くのか、何を伝えたいのか、テーマを明確にした文章を作成するために、構想をたて、アウトラインを作り、正確に表記するスキルを学んでいきます。またいわゆる名文と呼ばれる、様々な特色や美しさを持った文章に触れることで、文章に対する豊かな感受性も養っていきましょう。</p>				
授業計画				
第1回 よりよい文章を書くために①				
第2回 より良い文章を書くために②				
第3回 論理的な文章とは				
第4回 構成とテーマの設定①				
第5回 構成とテーマの設定②				
第6回 資料の探し方				
第7回 論作文を書いてみよう①				
第8回 論作文を書いてみよう②				
第9回 論作文を書いてみよう③				
第10回 推敲の方法①				
第11回 推敲の方法②				
第12回 引用と要約①				
第13回 引用と要約②				
第14回 より良い文章を書くために③				
第15回 総括				
テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』（岩波新書 2007年）			
参考文献	千葉恭造・本多隼男他『文章表現と会話』（双文社 1983年） 尾川正二『文章のかたちとところ』（ちくま学芸文庫 1995年）			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。			
内容的に関連する科目	文章の表現Ⅱ・文章の読み方・小論文の書き方			

科目名	文章の読み方	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Study of Modern Japanese Literature	1	前期	2
担当者名	橋元志保	テーマ	読解力と表現力	
授業概要 <p>「読むこと」は「書くこと」と同様、創造的な行為であるということは、昨今の文学研究における共通理解となっています。つまり、あなたの目の前に存在する文章は、あなたが読まなければただのインクの染み、活字の羅列に過ぎません。読者であるあなたが「読むこと」によって、初めて活字は言葉となり、文章は理解され、意味を持つのです。</p> <p>「本を読む人は、もう一人の親友を持っているようなものだ」とは良くいわれることですが、「読むこと」の可能性は、常にあなた自身の前に開かれています。「読むこと」によって、わたしたちは可視の世界を超えた様々な事物に出会うことができます。また「読むこと」はあらゆる勉学の基礎でもあります。</p> <p>本講義は、様々な分野の本を「読むこと」によって、読解力とそれを表現する力を養い、自分自身の思考を深めていく一助にしたいと考えています。</p>				
授業計画				
第1回 文章の読み方①				
第2回 文章の読み方②				
第3回 ノンフィクション・手記を読む①				
第4回 ノンフィクション・手記を読む②				
第5回 随筆（エッセイ）を読む①				
第6回 随筆（エッセイ）を読む②				
第7回 論説文を読む①				
第8回 論説文を読む②				
第9回 詩（韻文）を読む①				
第10回 詩（韻文）を読む②				
第11回 小説を読む①				
第12回 小説を読む②				
第13回 論文を読む①				
第14回 論文を読む②				
第15回 総括				
テキスト	資料を配付する。			
参考文献	授業の際に紹介する。			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。			
内容的に関連する科目	小論文の書き方・文章の表現Ⅰ・文章の表現Ⅱ			

科目名	地理学の基礎 I	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Geography I	1	前期	2
担当者名	上村 康之	テーマ	日本の地誌と東アジア・ロシア極東の地誌	
授業概要 <p>この授業は、地理学（授業では地理学の基礎Ⅱ）を系統的に学ぶ前の基礎知識として、日本及び周辺諸国の地誌を学ぶものとする。日本地誌では、総論として日本の国土と自然の特徴をとらえたあと、各地方からいくつかの地域をとりあげ産業、交通、文化などの視点から動的な地誌の形をとった授業とする。外国地誌では、東アジア・ロシア（極東地域）の地誌をとりあげ、特に各地域の民族や国家の特色や課題、日本との関係に視点を置いた内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地理学の基礎Ⅰ・Ⅱを通年で受講することが望ましい。 ○ なお、受講者が少人数の場合は、講義中心でなく配付資料の輪読、発表を取り入れた授業を行う。 				
授業計画				
第1回 日本の国土と自然 1				
第2回 日本の国土と自然 2				
第3回 北海道・東北				
第4回 関東・中部・近畿 1				
第5回 関東・中部・近畿 2				
第6回 中国・四国				
第7回 九州				
第8回 沖縄				
第9回 現代の国家と民族問題				
第10回 中国 1				
第11回 中国 2				
第12回 モンゴル				
第13回 韓国				
第14回 ロシア極東				
第15回 前期試験				
テキスト	テキストは使用しない。プリントを適宜、配付する。			
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図 最新版』帝国書院、2004年			
単位認定の方法	定期試験とレポートの内容により、総合的に評価する。			
内容的に関連する科目	産業と地域Ⅰ・Ⅱ、人間と地域、自然と地域、地誌			

科目名	家族の危機と変容	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Crises and Transformation of Family	2	前期	2
担当者名	庄司 信	テーマ	家族の機能と危機・変容の諸相	
授業概要 家族は誰にとっても身近であるという点で格好の社会学入門のテーマである。社会の「基礎集団」としてどのような「役割（機能）」が期待され、どのようにしてその「秩序」は成り立っているのか。また、昨今どのような「危機」や「変容」が問題となっているのか。前者のような問は「社会一般の成り立ち」を考えることにつながり、後者のような問は家族をとりまく現代社会の様々な動向や変化についての理解を必要とする。つまり、家族についてあれこれ論じながら、一方で社会科学的なもの見方・考え方を学んでもらうとともに、他方で現代社会全般についての理解と関心を深めてもらうことをねらいとしている。さらに、家族の主要な機能の一つは「子供を育てること」なのだから—それが今なかなかうまくいかなくなっている—、今の皆さんが、家族との対立や家族以外の影響も含めて、どのように形成されてきたのか、またどのような「生」の形を知らず知らずのうちに強要されているのか、を振り返る（自己認識・反省）きっかけになってくれればという期待も抱いている。それが社会科学を学ぶことの重要な意義の一つだからである。				
授業計画 第1回 社会（科）学的なもの見方・考え方（概念や論理）の効用と弱点と分かりにくさ—例えば現代社会の世相を描く小説（物語）とどこが違う？自然科学とどこが違う？ 第2回 出発点としての「問題」—家族の「危機」と「変容」あれこれ 第3回 「危機」という判断の暗黙の前提を問う—家族の「社会的機能」と「規範的期待」 第4回 社会一般が成り立つための「機能要件」から家族の「社会的機能」を考える 第5回 「機能的等価物」—「危機」それとも「変容」？ 第6回 「規範的期待」—「愛の共同体」というイデオロギー／「意味の世界」を生きる人間／「心」と社会 第7回 「絆」としての「愛情」と「利害」と「信頼」—家族を学校や企業と「比較」しよう 第8回 「近代社会」における「近代家族」—社会の「機能的分化」と家族の変化／分析枠組みとしての「家族—学校—地域—経済—国家—文化」 第9回 近代社会の原理としての「自由」「平等」「競争」「共同」と家族—「個人主義」は「危機」の元凶か 第10回 経済のサービス化、消費社会化と家族—家族の「市場化」と「性別役割分業」の動揺、他者との関わりを避けて生きる可能性の増大 第11回 情報化、グローバル化と家族—「地域」の衰退とネットワーク社会化、etc. 第12回 家族と学校—学校の社会的機能、「社会の学校化」 第13回 少子高齢化と家族—子供の外遊び集団の激減／子供を嫌い負担と感ずる大人／動物やロボットも家族？ 第14回 福祉国家の再編と家族政策 第15回 インフォーマルセクターへの注目と家族の今後				
テキスト	コピーを配布する			
参考文献	コピーを配布する			
単位認定の方法	レポートと試験の成績			
内容的に関連する科目	家族の危機と変容、国際経済学、資本主義のしくみ			

科目名	現代社会と経済	分類	必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Modern Society and Economy	1	前期	2
担当者名	佐藤 努・白川 欽哉・塚谷 文武	テーマ	社会を科学しよう	
授業概要 テレビニュースでは経済問題が1つか2つは必ずあつかわれ、ニュースの最後はマーケット情報です。経済問題は私たちにとっていま身近なものとなっています。しかし、経済問題に関心や知識があっても、それと経済学とはどのように結びつくのかという分からないことが多いと思います。この科目では、経済や経済学に対する興味・関心を引き出し、後期以降の本格的な経済学の学習に導くことをねらいとしています。教員ごとに授業の進め方は異なります。下記の授業計画は一応の目安です。				
授業計画				
第1回 はじめに				
第2回 雇用と賃金・労働条件(1)				
第3回 雇用と賃金・労働条件(2)				
第4回 生活と福祉(1)				
第5回 生活と福祉(2)				
第6回 市場の本質と機能(1)				
第7回 市場の本質と機能(2)				
第8回 資本と利潤(1)				
第9回 資本と利潤(2)				
第10回 巨大企業と独占(1)				
第11回 巨大企業と独占(2)				
第12回 貨幣と信用(1)				
第13回 貨幣と信用(2)				
第14回 再生産と変動(1)				
第15回 再生産と変動(2) まとめ				
テキスト	角田修一 編『社会経済学入門』大月書店、2003年。			
参考文献	授業のなかで紹介する。			
単位認定の方法	期末試験の成績に出席を加味する。			
内容的に関連する科目				

科目名	マクロ経済学	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Macroeconomics	2	前期	2
担当者名	北野友士	テーマ	GDP、IS/LM分析	
授業概要 <p>私たちの生活は好むと好まざるにかかわらず、景気の良し悪しなどのかたちで、個人個人の努力だけではどうにもならない経済の大きな流れに左右されています。マクロ経済学とは、こうした大きな経済の流れを理解するための考え方です。そのため、本講義では、そうした大きな経済の流れをつかむため、指標としてのGDPと、分析ツールとしてのIS/LM分析とを学びます。</p>				
授業計画 第1回 インTRODクシヨシ 第2回 マクロ経済とGDP 第3回 GDPの三面等価 第4回 有効需要と乗数メカニズム(1) 需要と景気 第5回 有効需要と乗数メカニズム(2) 限界消費性向と乗数 第6回 有効需要と乗数メカニズム(3) 投資・政府支出と所得水準の決定 第7回 金利と貨幣需要 第8回 マクロ経済政策 第9回 インフレと失業(1) フィリップス曲線 第10回 インフレと失業(2) インフレの社会的コスト 第11回 財政政策のマクロ経済分析 第12回 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析(1) 資産市場と財市場 第13回 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析(2) 財政・金融政策 第14回 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析(3) IS-LM分析 第15回 まとめ				
テキスト	伊藤元重『入門 経済学』日本評論社			
参考文献	講義中に適宜紹介します。			
単位認定の方法	出席、試験、平常点（レポートなど）			
内容的に関連する科目				

科目名	仕事と暮らしの経済学	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Guide to Social Policy	2	前期	2
担当者名	藤本 剛	テーマ	「社会政策・社会保障」入門編	
授業概要 <p>この科目は3年で学ぶ「労働について考える」「年金・保険を考える」(社会政策、社会保障)の入門編として、問題意識的にこれらの分野をかいま見るものです。職業とキャリアで学んだ仕事についての理解と知識に基づいて、賃金・労働時間・雇用と失業・雇用のさまざまな形態などについて今職の現場で起こっている問題を取り上げます。また生活を保障するシステムである年金・医療保険・生活保護やさまざまな福祉分野についても課題を取り上げ、主に経済の側からのアプローチを試みます。こうして経済を学ぶ意欲と意識の向上を図りたいと考えています。</p>				
授業計画				
第1回 「働くこと」をめぐる様々な仕組みや制度について				
第2回 年功賃金と成果主義				
第3回 過労死・過労自殺はなぜ起こる				
第4回 フリーターについて考えよう				
第5回 様々な働き方について				
第6回 女性と仕事と家事・育児				
第7回 年金は将来受け取れるか				
第8回 年金制度のどこが問題か				
第9回 安心して医者にかかるために(医療費)				
第10回 安心して医者にかかるために(医療システム)				
第11回 クスリは怖い				
第12回 セフティーネットとしての生活保護				
第13回 健やかな老後をおくるためには				
第14回 バリアフリーを考える				
第15回 まとめ				
テキスト	プリントを使用します			
参考文献	『厚生労働白書』『労働経済白書』各年版			
単位認定の方法	出席、レポート、試験等を総合評価します			
内容的に関連する科目	職業とキャリア、労働について考える、年金・保険を考える			

科目名	財政のしくみ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Public Finance I	2	前期	2
担当者名	塚谷文武	テーマ	財政のしくみを理解する	
授業概要 <p>現代財政のしくみや原理、問題点や改革方向を理解するのは大変むずかしい。しかし、日常生活において国や地方自治体など公共部門の経済活動、いわゆる「財政」をぬきには語ることはできない。本講義では、難解な現代財政のしくみや課題をわかりやすく解説し、その理解を深めることを目的としている。</p>				
授業計画				
第1回 財政とは何か(1) 内容：現代財政の特質				
第2回 財政とは何か(2) 内容：日本の予算制度				
第3回 公共部門の役割と経費(1) 内容：経費の分類				
第4回 公共部門の役割と経費(2) 内容：経費膨張の法則				
第5回 公共部門の役割と経費(3) 内容：経費論の課題				
第6回 租税の基礎理論(1) 内容：租税とは				
第7回 租税の基礎理論(2) 内容：租税原則、租税制度、租税負担の構造				
第8回 所得課税と消費課税(1) 内容：所得税、法人税				
第9回 所得課税と消費課税(2) 内容：消費課税、資産課税				
第10回 税制改革の理論と実際 内容：税制改革の原則と諸外国の税制改革				
第11回 財政投融资(1) 内容：財政投融资制度の仕組みと特徴				
第12回 財政投融资(2) 内容：財政投融资改革の方向性				
第13回 地方財政(1) 内容：地方自治と地方財政				
第14回 地方財政(2) 内容：地方財政調整制度				
第15回 総括と展望				
テキスト	重森暁・鶴田廣巳・植田和弘『Basic 現代財政学〔新版〕』有斐閣、2003年。			
参考文献	適宜、お知らせします。			
単位認定の方法	期末試験（70%）、出席点（30%）を含めて成績評価を行う。			
内容的に関連する科目	地方の財政（前期）、財政と国民生活（後期）			

科目名	現代ファイナンス論 I	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Finance I	2	前期	2
担当者名	北野友士	テーマ	貨幣、銀行、金利	
授業概要 近年、金融の分野では、資産運用の手段が多様化しています。もう一方で、社会保障の財政悪化が指摘されています。一見、無関係の出来事のように見えますが、国民ひとりひとりが自らの判断でお金を増やし、将来に備える必要性が高まっているという点では、共通しています。そのため、この講義では、金融の基本的な要素であるお金（貨幣）や銀行の役割、金利について学びます。				
授業計画 第1回 インTRODクシヨN 第2回 交換経済と貨幣 第3回 銀行制度と決済システム 第4回 銀行と貨幣の創造 第5回 貨幣の機能と金融 第6回 資金の調達と運用 第7回 金融仲介機関の機能 第8回 資金の循環と金融取引 第9回 市場取引と相対取引 第10回 短期金融市場 第11回 資本市場 第12回 金利とは何か 第13回 金利の決定 第14回 資産価格と金利 第15回 まとめ				
テキスト	岩田規久男『金融入門』岩波新書			
参考文献	講義中に適宜紹介します。			
単位認定の方法	出席、試験、および平常点（レポート等）			
内容的に関連する科目				

科目名	資本主義経済のしくみⅠ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Political Economy I	2	前期	2
担当者名	佐藤 努	テーマ	資本主義経済の構造と動態	
授業概要 <p>はじめに経済理論の学習への導入として、再生産のモデルをあつかい、物財と時間で消費と生産のくり返しの仕組みをみる。つぎに、資本主義経済の仕組みを明らかにするために、まず、市場経済の仕組みを明らかにする。商品とは何か、貨幣とは何かということをはっきりと明らかにしていく。</p>				
授業計画				
第1回 はじめに				
第2回 再生産のモデル(1)				
第3回 再生産のモデル(2)				
第4回 再生産のモデル(3)				
第5回 再生産のモデル(4)				
第6回 第1章 市場経済と商品 I 市場経済と商品の2要因				
第7回 II 商品に表される労働の二重性格				
第8回 III 価値形態または交換価値				
第9回 IV 商品の物神的性格とその秘密				
第10回 V 商品生産の多様化とグローバリゼーション				
第11回 第3章 市場経済と貨幣 I 商品の交換過程と貨幣の発生				
第12回 II 市場経済と貨幣の五つの機能(1)				
第13回 II 市場経済と貨幣の五つの機能(2)				
第14回 III 金の供給と需要				
第15回 IV 現代資本主義とインフレーション				
テキスト	松石勝彦『新版 現代経済学入門』青木書店、2002年、2500円			
参考文献				
単位認定の方法	試験の成績に出席を加味する。			
内容的に関連する科目	現代経済と社会、入門経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学			

科目名	国際経済学 I	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Economics I	2	前期	2
担当者名	にし お 尾 圭一郎	テーマ	貿易論	
授業概要 国際経済学は、大きく分けて2つの領域に分けることが出来る。1つは国際貿易の分野であり、もう1つは国際金融の分野である。前期に行う本講義では国際貿易について学習する。その際、「理論なき現実分析」や「現実なき理論」に陥らないよう、貿易の基礎理論と世界経済の現状とをバランスよく学習することを目標とする。				
授業計画 第1回 インTRODクシヨン 第2回 グローバル化と国際経済 第3回 国際経済学のフレームワーク 第4回 分業の利益と機会費用 第5回 比較優位と絶対優位 第6回 比較生産費説：リカードの理論 第7回 貿易の利益①：閉鎖経済と開放経済 第8回 貿易の利益②：消費者余剰 第9回 貿易の利益③：生産者余剰 第10回 比較優位の決定要因：ヘクシャー＝オリーンの理論 第11回 新しい貿易のあり方：産業内貿易 第12回 水平的産業内貿易と垂直的産業内貿易 第13回 モノの貿易とサービスの貿易 第14回 自由貿易と新自由主義 第15回 まとめ				
テキスト	石川城太・菊池徹・椋寛『国際経済学をつかむ』有斐閣			
参考文献	講義中に適宜紹介します。			
単位認定の方法	出席、試験、および平常点（レポート等）			
内容的に関連する科目				

科目名	日本経済の歩み I	分類	経済学科選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese Economic History I	2	前期	2
担当者名	鈴木達郎	テーマ	両大戦間期と戦後改革期の日本経済	
授業概要 <p>本講義の課題は、両大戦間期と戦後改革期を対象として、日本経済の歴史的特質を明らかにすることにある。戦後改革は、戦前型経済システムの解体をもたらしたと同時に、戦後型経済システム成立の前提ともなった結節点である。「日本経済論」との関係も考慮して、まず「戦後改革期」を検討したい。次いで、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけての「両大戦間期」を検討し、なぜ日本は「軍事大国」への道を歩むことになったのかを考察する。</p>				
授業計画				
第1回 講義案内——近・現代日本経済の見取り図				
第2回 占領政策				
第3回 財閥解体				
第4回 労働改革と農地改革				
第5回 傾斜生産方式				
第6回 ドッジラインと朝鮮戦争特需				
第7回 小括——戦後改革期の日本経済				
第8回 1910年代の日本経済——大戦景気				
第9回 1920年代の日本経済——慢性不況				
第10回 井上財政と高橋財政				
第11回 日中戦争期の統制経済				
第12回 アジア・太平洋戦争期の統制経済				
第13回 小括——両大戦間期の日本経済				
第14回 総括——戦前と戦後の連続と断絶				
第15回 定期試験				
テキスト	テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義の中で紹介する。			
単位認定の方法	試験の結果に出席点を加算して評価する。			
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみ I、欧米の産業と交易の歴史 I・II			

科目名	欧米の産業と交易の歴史 I	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	European and American Economic History I	2	前期	2
担当 者 名	白 川 欽 哉	テ ー マ	19世紀欧米経済の史的源流	
授業概要 <p>本講義では、世界史のさまざまな事象を、生産と流通を軸に類型化するとともに、それを各国の特殊事情と対比させながら分析を試みます。講義は平易な表現で行うこと心掛け、専門用語については可能な限り詳しく解説します（プリントを配布）。講義では、諸外国の経済史をとりあげます。普段聞き慣れない地名（例：フランドル・ブラバントなど）が登場しますので、欧米の地誌についてあらかじめ勉強しておいて下さい。</p>				
授業計画				
第1回 欧米の経済史を学ぶ				
第2回 ヨーロッパの誕生				
第3回 十字軍と「商業の復活」				
第4回 ヴァイキングロードと商業				
第5回 自治都市の形成と発展				
第6回 中世の商業組織				
第7回 大航海時代以降の構造転換				
第8回 オランダの独立と繁栄				
第9回 毛織物の生産と輸出をめぐる競争				
第10回 オランダの凋落とイギリスの台頭				
第11回 イギリス綿工業の勃興と成長				
第12回 イギリス国内商業の展開				
第13回 フランス革命と「営業の自由」				
第14回 ドイツ関税同盟と鉄道建設				
第15回 総まとめ				
テ キ ス ト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』（有斐閣）			
参 考 文 献	石坂昭雄・壽永欣三郎・山下幸夫・諸田實編著『商業史』（有斐閣）			
単 位 認 定 の 方 法	定期試験の点数と出席率の総合評価（出席3分の2以上の学生のみ評価します）			
内容的に関連する科目	日本経済の歩み I & II			

科目名	経済政策のしくみ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	前期	2
担当者名	野口秀行	テーマ	21世紀の日本経済の行方	
授業概要 戦後わが国は、その国土は焦土と化すとともに対外資産の放棄を余儀なくされ、極度の資本不足に陥る。しかしながら、日本経済は、そこから不死鳥のように復活し、世界でも最も富裕な国へと変貌を遂げた。本講義では、日本経済の復活と経済政策との関連を学ぶとともに、今後予想される総人口の減少、地球温暖化などの環境制約、資源制約、BRICSの台頭など、日本経済を取り巻く諸課題を克服していくための経済政策について検討する。				
授業計画 第1回 復興金融公庫および傾斜融資 護送船団方式の採用 第2回 臨海工業団地の創生とその背景（発想の転換） 第3回 太平洋戦争の失敗から生まれた日本工業規格 第4回 1950年代に創業した企業群（ソニーとホンダ） 第5回 エネルギー転換（石炭から石油へ）と通産省のエネルギー政策 第6回 オイルショックと産業構造転換（重厚長大から軽薄短小へ） 第7回 田中列島改造計画と国土政策の破綻 第8回 ジャパンアズナンバーワンと日米欧の貿易戦争 第9回 バブル経済と日銀金融論の破綻 第10回 ビル・エモット「日はまた沈む」 第11回 国民の犠牲の下でのメガバンクの不良債権の処理 第12回 金融ビッグバンと護送船団方式 第13回 科学技術大国への道（ナノテク・IT・バイオそれでも金型） 第14回 ビル・エモット「日はまた昇る」 第15回 石油高騰とサブプライムローン問題（RMBS、CDO、ABCP）				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断			
内容的に関連する科目	マクロ経済 ミクロ経済			

科目名	経済学の歴史 I	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	History of Economic Thought I	3	前期	2
担当者名	佐藤 努	テーマ	近代とは何か	
授業概要 西ヨーロッパ型の資本主義社会 (=近代市民社会) を白人以外で生み出したのは日本人だけであり、このことは現代でもなお興味深い事実である。アジア諸国から (不法) 労働者が大量に流入してくるのは、この日本の豊かさと自由にひかれるからである。アジア諸国の社会には前近代的な仕組みがなお強固にのこっており、それら諸国が自由で豊かな社会になることを阻んでいるのである。しかし、他方、西欧資本主義は2度にわたる世界大戦をひき起こし、現時点でも社会的・経済的に深刻な問題をかかえている。現代を理解するための1つのポイントは、なお、近代とは何かという問いのなかにある。近代が生まれるときに、その近代を理論的に準備した経済学——重商主義経済学、古典経済学など——がどのように生まれでて、発展してきたのか、このことを中心として経済学の歴史をみていく。				
授業計画				
第1回 序 (その1)				
第2回 序 (その2)				
第3回 第1部 古典経済学の性格 第1章 自然主義 (その1)				
第4回 第1章 自然主義 (その2)				
第5回 第2章 自然法思想				
第6回 第3章 古典経済学の間像 —理性的人間像 (その1)				
第7回 第3章 古典経済学の間像 —理性的人間像 (その2)				
第8回 第4章 古典経済学の社会観 —原子論的社会観 (その1)				
第9回 第4章 古典経済学の社会観 —原子論的社会観 (その2)				
第10回 第2部 古典経済学の時代背景 序章 経済理論、経済思想、時代背景				
第11回 第1章 手工業を基礎とする資本主義と機械制大工業を基礎とする資本主義				
第12回 第2章 封建地代=封建的土地所有				
第13回 第3章 封建地代=封建的土地所有の廃棄→近代的土地所有の成立				
第14回 第4章 農村の手工業・マニュファクチュアと都市の手工業・マニュファクチュア				
第15回 第5章 重商主義				
テキスト				
参考文献	随時紹介します。			
単位認定の方法	筆記試験の成績に出席を加味します。			
内容的に関連する科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、資本主義経済のしくみ I・II、欧米の産業と交易の歴史 I・II			

科目名	公務員の数学 I	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Mathematics for Examinations I	2	前期	2
担当者名	佐藤 努	テーマ	基礎を身につけよう	
授業概要 公務員試験のなかでも国家Ⅲ級・地方初級レベルの数的推理の問題が解けるようになることを目指す。1次方程式を使って解く問題に中心的に取り組み、基礎の反復練習に重点をおく。関連する他の科目・講座等と合わせて履修することが望ましい。				
授業計画				
第1回 1次方程式の解き方(1)				
第2回 1次方程式の解き方(2)				
第3回 速さの問題(1)				
第4回 速さの問題(2)				
第5回 濃度の問題(1)				
第6回 濃度の問題(2)				
第7回 比の問題(1)				
第8回 比の問題(2)				
第9回 平方根(1)				
第10回 平方根(2)				
第11回 2次方程式(1)				
第12回 2次方程式(2)				
第13回 総合問題(1)				
第14回 総合問題(2)				
第15回 総合問題(3)				
テキスト	プリントを配布します。			
参考文献				
単位認定の方法	小テスト、期末試験の成績に出席を加味する。			
内容的に関連する科目	数学のはなしⅠ・Ⅱ			

科目名	地方の財政	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Local Public Finance I	3	前期	2
担当者名	塚谷文哉	テーマ	国と地方の財政関係を理解する	
授業概要 地方財政は、2000年地方分権一括法の施行や第2期三位一体改革など地方分権改革が進められるなかで、重大な局面を迎えている。本講義では、地方分権改革に関する最新の動きを素材としながら、地方財政の基本的なしくみや課題を説明することを目的としている。				
授業計画				
第1回	地方財政と社会・経済 (1) 内容：地方財政の地位と役割			
第2回	地方財政と社会・経済 (2) 内容：集権から分権へ			
第3回	国と地方の財政関係 (1) 内容：国と地方の財政規模			
第4回	国と地方の財政関係 (2) 内容：税財政の分権改革			
第5回	予算制度 (1) 内容：財政民主主義と予算			
第6回	予算制度 (2) 内容：地方予算制度と改革課題			
第7回	地方税 (1) 内容：地方税の地位と役割			
第8回	地方税 (2) 内容：地方税体系と租税原則			
第9回	地方交付税 (1) 内容：地方財政調整と地方交付税			
第10回	地方交付税 (2) 内容：地方交付税改革			
第11回	国庫支出金 (1) 内容：国庫支出金の仕組み			
第12回	庫支出金 (2) 内容：国庫支出金の現状と改革課題			
第13回	地方債 (1) 内容：地方債制度の概要			
第14回	地方債 (2) 内容：地方分権時代の地方債制度			
第15回	総括と展望			
テキスト	和田八束・星野泉・青木宗明編『現代の地方財政（第3版）』有斐閣、2004年。			
参考文献	適宜、お知らせします。			
単位認定の方法	期末試験（70%）、出席点（30%）を含めて成績評価を行う。			
内容的に関連する科目	財政のしくみ（前期）、財政と国民生活（後期）			

科目名	コミュニティ・ビジネス	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	前期	2
担当者名	野口 秀行	テーマ	コミュニティ・ビジネスが地域を活性化する	
授業概要 コミュニティ・ビジネスの目的は、住民主体のスモールビジネスを導入し、コミュニティに存在する様々な問題の解決に貢献することにあるが、それはボランティアと企業の中間的な領域に位置しているものであり、地域社会のネットワークに支えられて成立しうるものでもある。各地で芽吹きつつあるコミュニティ・ビジネスは、バランスの取れた経済社会の発展を支えるという側面からみても、社会的な意義は大きいといえる。本講義では、コミュニティ・ビジネスとそれを支えるコミュニティ・ファイナンスについて学ぶ。				
授業計画				
第1回 コミュニティ・ビジネスとは				
第2回 もう一つの経済（ノン・プロフィット・エコノミー）				
第3回 NPOとコミュニティ・ビジネス				
第4回 欧米におけるコミュニティ・ビジネスの事例				
第5回 我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例 (1)				
第6回 我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例 (2)				
第7回 我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例 (3)				
第8回 コミュニティ開発とコミュニティ・ファイナンス				
第9回 コミュニティ・ファイナンスとは				
第10回 米国におけるコミュニティ・ファイナンス				
第11回 英国におけるコミュニティ・ファイナンス				
第12回 我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例 (1)				
第13回 我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例 (2)				
第14回 地域ファンド・環境ファンド				
第15回 地域づくりとコミュニティ・ビジネス				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断			
内容的に関連する科目	NPOの経営 地域づくり論			

科目名	農業と経済	分類	経済学科選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Agricultural Economy	3	前期	2
担当者名	鈴木達郎	テーマ	日本農業—再生か解体か	
授業概要 1999年に施行された食料・農業・農村基本法＝新基本法は、「食料の安定供給」を確保し、「多面的機能」を発揮する日本農業の「持続的な発展」をめざし、その基盤となる「農村の振興」を図ることを「基本理念」として掲げた。果たしてこの「基本理念」は現実のものとなるのであろうか。これが本講義のテーマである。まず、農業経済の基礎理論として、小農制農業と企業制農業との差異を学ぶ。次いで、それを理論的武器として、再生か解体かの重大な岐路に立たされている日本農業の現状を分析する。その上で、日本農業再生の方途を考えてみたい。				
授業計画				
第1回 課題と視角				
第2回 企業制農業論①—イギリス農業の展開				
第3回 企業制農業論②—農産物価格と地代				
第4回 小農制農業論①—アメリカのファミリーファーム				
第5回 小農制農業論②—日本の自作農				
第6回 小農制農業論③—農産物価格と地代				
第7回 農地改革				
第8回 農業基本法				
第9回 食料・農業・農村基本法				
第10回 日本農業と食料安全保障				
第11回 日本農業と環境保全				
第12回 日本農業と地域振興				
第13回 秋田県農業の特質				
第14回 日本農業の再生				
第15回 定期試験				
テキスト	テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義のなかで紹介する。			
単位認定の方法	出席、定期試験の結果によって総合的に判定する。			
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみⅠ・Ⅱ			

科目名	労働について考える	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Social Policy	3	前期	2
担当者名	藤本 剛	テーマ	働くって何だろう	
授業概要 <p>3年になると就職活動が現実に関近になってきます。この授業では「働く」ときに直面することになるさまざまな問題を社会政策の側面から取り上げ、制度や仕組み、現状と課題などについて共に考えていきます。近年、年功序列、終身雇用などを特徴としてきたわが国の労働市場が、派遣やパート労働、契約雇用など流動性を増大させており、また成果主義による賃金の導入も拡大しています。2年の「仕事と暮らしの経済学」でも取り上げたさまざまな労働をめぐる問題について、より踏み込んで分析し、確かな判断力と今後への指針を得るのがこの科目の目標です。</p>				
授業計画				
第1回 社会政策の考え方と歴史の流れ				
第2回 労働市場をどう捉えるか（指標）				
第3回 労働市場政策①（雇用・失業対策）				
第4回 労働市場政策②（女性、若者）				
第5回 労働市場政策③（高齢者、障害者、外国人）				
第6回 労働時間をめぐる社会政策の流れ				
第7回 今日の労働時間問題とワークシェアリング				
第8回 賃金制度				
第9回 賃金政策（最低賃金制など）				
第10回 日本の賃金と賃金政策				
第11回 今日の賃金問題（成果主義・年俸制など）				
第12回 労使関係とは				
第13回 労働組合				
第14回 日本の労使関係（歴史と現状）				
第15回 まとめとテスト				
テキスト	『公務員Vテキストシリーズ 社会政策』TAC出版			
参考文献	『労働経済白書』各年版			
単位認定の方法	出席率、試験、レポート、メッセージカードの総合評価			
内容的に関連する科目	年金・保険を考える、労働法			